

味を描いた一篇。どの短篇も、この作家にしか書けないと思わせる個性にあふれている。

「夜の潜水艦」は一九九〇年生まれの中国文学界の新星、陳春成の短篇集だ。純粋なSF短篇集ではないが、空想力や創造をキイにした、幻想的な作品が揃っている。たとえば表題作は、幼少期から高校時まで、類まれなる空想力を発揮し自分だけの「潜水艦」を構築し、学校が終わるとその世界に駆け戻っていた少年の語りを通して、極限の細部まで突き詰めていく空想力がどれほどのパワーを持ち得るのかを描き出している。「彩筆伝承」は、偉大な作品を書けるようになるが、それを誰にも見せられないとしたら、あなたはその選択をしたいと思うか？ という創造にまつわる問いかけと、書き、読まれること



陳春成 (夜晩的潜水艦, 2020) 大久保洋子訳 / 2420円 / アストラハウス

カバー作品：陳春成 (Saulcase Hey) 2014 Photography by KIKU Keizo
© Miyunaga Aiko, Courtesy of Miyajima Art Gallery
ブックデザイン：丸山コノ